

日 時：令和2年11月20日（金） 午後3時00分～午後4時30分

場 所：本校 会議室

出席者：安松 秀、吉田 巖、小林 毅、森脇 正子、古賀 栄一（以上委員5名）、
校長、教頭、首席、指導教諭、各分掌長、合計13名

●協議の内容

① 新型コロナウイルス感染症の対策について

Q：コロナの影響で心が弱くなっている人が多い気がする。企業でも社員の心のケアが大切で幹部の
カウンセリング力の強化を行っている。カウンセラーは月に1度で大丈夫か？

A：担任をはじめ、保健部や委員会など、学校全体で取り組むようにしています。

Q：雨の時や、冬の寒い時の換気はどうしているか。

A：雨が強いときは生徒が自主的に閉めている。冬は休み時間の時だけ換気するなど対応。

Q：食事中に感染する可能性が高いと言われていたが、学校では昼食時何か対応をしているか？

A：対応できていない。昼食時は向き合って、おしゃべりしながら食べている。生徒も少しコロナに
対してゆるみがちになっている。担任を中心に注意喚起をしていく。

② 探究活動について

Q：探究活動の事前研修とはどのようなものか？

A：今年度は、（講演の講師の出身国である）、「ハンガリーが『ヨーロッパの住みやすい国 BEST5』に
入るためにはどのようにすればいいか？」 というテーマを与え、グループごとにポスターを作
り、内容をまとめて発表。代表グループをいくつか選び、実際に講師の方に提案できる機会も作
った。

現在の教育はインプットよりもアウトプットを重要視している。自分で課題を発見し、調べ、発
表する、生徒にとってもいい機会になった。

●授業見学から

- ・生徒はまじめで穏やか。好感が持てる。伝統が引き継がれていてうれしい。
- ・教員が積極的に ICT を活用している。ペアワークやグループワークを多く取り入れるなど主体的・対話的な学習活動に取り組んでいる。

Q：コロナで授業開始が遅れたが、生徒の評価はどうしたのか。

A：評価面の変更は特になし。例年通り授業時間数を確保することに尽力。土曜授業や夏休みの
短縮、7時間50分授業の導入などを行った。生徒も柔軟に対応してくれている。

●交野高校に希望すること

Q：目的なしにとりあえず大学へ進学しようとしていないか？それ以外の選択肢もあるのではない
か。

A：交野高校では1年時から探究の時間を利用してキャリア教育を行っている。「大学へ行くことが
目標ではない」ということも教えている。また、奨学金指導についてもしっかりおこなってい
る。大学卒業時にどのくらいの借金を背負うのか、奨学金を返せる職業に就くことなどを伝え
ている。

Q：生徒や親は何を期待して交野高校へ来るのか？

A：一番は学校の雰囲気が落ち着いていること。

また、授業も集中して受講できること、クラブ活動が盛んなことも魅力的である。

・交野高校の生徒にはたくましくなってほしい。自分で未来を切り開く力をつけてほしい。